

からだ すくすく
のびのび あそび
自然に わくわく

令和5年度
麻機
幼稚園



園長だより
R5.11.30
HP掲載版

「遊びは学び」

11月の砂場遊び

11月14日のHPトップページコメントの回答 こういう遊びになっています!

ご覧の通り、2~3人の友達といろいろなところで遊ぶ姿が見えます。ダイナミックさがなくなっている!?

もっと子どもたちのそばによって、見てみましょう。

いったいなぜ こんなすみっこで遊んでいるの?

だって ここ「さら粉」があるんだよ



さら粉を作る。この集中!

砂山作りにさら粉を使うという気づき。さら粉の感触も味わっている。繊細な遊びになっている

身近な道具で、山を固めていく。自分なりの山のイメージがあるのでしょう。

水の流れる様子をじっくり見て。友達もかかわりながら。この辺の取り組み方が年長らしい。

水の流れを見てこうして丁寧に水路を作っていく。これが、学びになっている。



こういう遊びが、学びになり 子どもの主体的な活動と質の 高い感覚を育てます。

年少

「遊びは学び」この会話にすばらしい気づきを感じました。



園長先生。見てえ！

ウサギさん

園長「きれいに塗ったね。耳からはみでてないね。」

これ、ニンジン。

ニンジンだから、赤で塗ったの。オレンジも塗ってみたら、色が混じって、こんなきれいになったよ。

園長「ほんとだ色混ぜるときれいになるね」

※混色を感覚的に受け止めているところがとってもいい。

しかも、この隣にいる年少さん。これを見て、

「園長先生！ライオンの毛、赤とオレンジで塗ってみた」。

きれいだと感じて、自分もやってみる。こうして遊ぶ中で関わり合って学んでいく姿こそ、遊びの本質です。

遊びが学びというのは、ここに挙げられた年長の砂遊びとこの年少の塗り絵の様子でわかります。

幼児期は、混色を教えるなど、知識を教えるということより、今後知識をつけるときの土台となるいろいろな感覚を養っていくことがもっとも大事です。

こうやって、塗り絵をしていくと子どもなので、

うまく塗ることができません。でもそれが色が混じるということになり、新しい色の発見を自分でしていくことになります。遊びの中から。もちろん、そこには保育者がいるので、敢えてそういう経験ができる題材を提示するとか道具や環境を整えることを意図的にしていかなければなりません。

また、いろいろな子どもの姿をどう見取っていくことができるかということも大事です。そういう意味で、園長だよりは、活動の意味や子どもの様子を私なりの見取りで書かせていただいています。

年中

思いきり動くことができる元気な子が多いのです。今までの積み上げは大きいですね。能力以上に、体を動かす楽しさと心地よさを味わって、運動が好きな子になってほしいのです。

1月にはちびっ子体操参観会もあります。



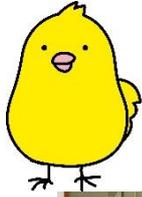
エアトランポリン



ひよこ

正課

『ちびっこ
体操』



みんなといるだけで、日ごとに成長しているひよこ組の子ども達。入ったばかりの子もいるのに、初めてのちびっ子体操でも、言われたことや見よう見まねで、何とかやろうとしているところがかわいいですね。



こうやって楽しみながらやっていくうちに、いろいろな運動の感覚が身に付きます。幼児にとっての運動の感覚は、普段の生活の中で生きて働く感覚です。



ちびっ子体操のような意図的な運動は効果が高いことはもちろん、子どもにとって遊びそのものが、いろいろな器官を育てています。ひよこも、スクーター乗り場で遊ぶようになりました。子どもの動きもかわりも今後の成長が楽しみです。



年少 遊びの視野に



年少の遊びも、友達が存在が視野に入っています。この写真にもあるように、友達と一緒にいたり、視線が友達の遊びだったりしています。まずは気の合う友だちから、関わりが生まれているのでしょう。友達という事への心地よさ、友達という安心感、そういうものが、幼稚園生活への安定につながってほしいと思います。

11月27日(月)の朝

～準備されている自由遊びの環境～



バランスボールが2個、柔らかいフラフープが大小10数個に、ボールが8つ。こういう遊び道具もあります。



そして、9時30分頃 遊具前の陽だまりでは、太陽の温かさと園庭の砂利の感触に浸っている子どもたち。周りで元気にサッカーの年長。



保育室には季節を感じるいろいろな絵や製作物が飾ってあります。年少のフクロウたち。いろいろな名前が付けてありましたが、このフクロウは、「えんちょうくん」というようです。担任の先生が教えてくれました。かわいいですね！

音楽発表会の時には、今までの作品展も保育室狭しと掲示されるので、楽しみに来園してください。各クラス、題材も違うので面白いのではないかと考えています。

年中 この絵は、顔の表情も豊かで、体の形や服の模様も描いている子の思いが表れているように感じました。その子らしさが絵に出ている。こういう絵を描かせたいと思っています。絵の描かせ方はいろいろあります。子どもが描けるようになるには、技法を使うことも大事ですが、描きたくなくなるような題材が大事です。こうして友達の近くで活動していると、友達の絵を見て真似る子が出てきます。いくら真似ても同じ絵にはなりっこないので、それが大事。「真似る＝学ぶ」です。上手に描けたのではなく、何よりも絵を描くことの楽しさを感じることが、一番のねらいです。



しばらくして保育室を見ると、こういう掲示になっていました。『さつまいもほり』の絵だったのですね。どれも、いろいろな表情が出ていていいですね。毛糸でつるやいもがつるされているところも面白い。

子どもの作品を見るときには、必ずどんな子が描いているのだろうと気になります。こういう絵に上手下手という基準はないので、絵を描いた子がどんな思いで描いたのだろうと想像して見るのが楽しいですね。



「あれっ？さわがにが2匹になっている??」

隣のクラスで以前にこんな話題になりました。そして、この日その隣のクラスで、「さわがにが脱皮した」というのを見に行き写真撮影しました。見ての通り、2匹に見えます。こんなにも本物と同じように脱皮するなんて。驚きました。さて、どちらのさわがにが本物でしょうか。

生き物の不思議さは、全て知的好奇心だと思います。